新たな学校の学校名・校歌・校章について

学校名・校歌・校章は学校生活における様々な場面で使用され、子どもの未来や学びに対する期待、地域の情景や特色などが織り込まれています。

本検討会では、南第三・南第四地区の新たな学校で使用する学校名・校歌・校章について、選定・制作方法やスケジュールについて検討を行います。

１　現在の両校の校歌・校章について

（１）　校歌

南第三小学校校歌 作詞　若林　牧春 作曲　平井　康三郎	南第四小学校校歌 作詞　浜野　卓也 作曲　松井　美波留
一　かすむたんざわ　あかねさし けやきわか葉に　風かおる 金森台地　空高く むねに希望が　燃えあがる 南第三　明るい母校	一　若葉の山なみ　丹沢の ふもとに光る　朝の風 手に手をつないで　輪になれば かすみの上から　ひばりも歌う あの子も　この子も　町田の子 南第四小学校
二　古い歴史の　こもる土 遠い祖先の　ゆめをつぎ 花さく平和 日本を 造る力がわきあがる 南第三　かがやく母校	二　金森台地に　霜の日も ときわのみどり　　そびえ立つ 空飛ぶボールを　　追う子らに サッカーゴールが　笑って招く 風吹け　雪降れ　負けないぞ 南第四小学校
三　かざすさくらも　かんばしく 固く手を組み　ほがらかに なか良く学び　健やかに 共に光の　道を行く 南第三　楽しい母校	三　学んで遊んで　話し合い 力をあわせ　　今日もまた 平和と文化の　道ゆけば 夕やけばらいろ　地球を染める 日本の子どもだ　世界の子 南第四小学校



（2） 校章

学校名	校章	由来
南第三 小学校		母体校南第一小学校の校章を基にして構成された。 南一小・南二小・南三小の校長が相談して決めた。 南村の小学校が、互いに協力しあっていく願いと、南地区のまとまりを考え、「南一」を「南三」と改め、他はそのままとした。
南第四 小学校		南地区の小学校の第一から第三までに共通する星の台に花びら・「南」の文字と学校の番号数字という形から、一新紀元を画したいとして公募を行った。 その結果、多くの中から西脇佐太郎（児童・保護者かは不明）考案のものを採用し、それを少し訂正して決定した。 桜の花びらの中に、丸い町田の市章を型どり、その上に「南四」の文字を浮き上がらせたものである。
＜参考＞ 南第一 小学校		星と桜の花は、質実剛健、公明正大を表している。 校章の中の文字は学校名と共に代わり、開暸学校時代は「開」、南村立南国民学校・南小学校時代は「南」、町田町立南第一小学校となって「南一」に変更した。 制作者の坂本龍之輔は第八代校長であり、開暸学校に六年間勤めた。

2　選定・制作方法について

（1） 学校名

学校名の選定は、「統合新設校の学校名選定基準について」（資料 4-2）を基に行います。

学校名について検討するにあたり、意見募集を実施します。意見募集は、統合対象校の児童・保護者・未就学児の保護者・地域住民・教職員を対象に、一ヶ月程度の募集期間を想定しています。

意見募集の結果を受け、2027 年度以降に設置する推進協議会において３案程度に絞り、その後、教育委員会で１案に絞ります。

（2） 校歌・校章

既に統合した地区では、校歌・校章の制作にあたって、地域の方や児童の意見を踏まえること、制作過程の一部に児童を参加させる（制作者との交流含む）ことを重視してきました。

そこで、それらの地区と同様に「校歌に含めたい単語・フレーズ」や「校章に含めたいもの・イメージ」等の意見募集を実施し、それを踏まえて制作することを想定しています。

＜制作方法の例＞
- 専門家への依頼
- 教職員への依頼
- 大学連携
- 公募
- 在校生の共作

＜参考＞他地区の校歌・校章の制作方法

学校名	校歌の制作方法	校章の制作方法
本町田ひなた小学校	大学連携	大学連携
成瀬小学校	専門家への依頼	大学連携
鶴川中央小学校	専門家への依頼	専門家への依頼

3　スケジュールについて

（1） 学校名

3 案選定まで（意見募集と推進協議会での協議）にはおおむね 1 年を想定しています。

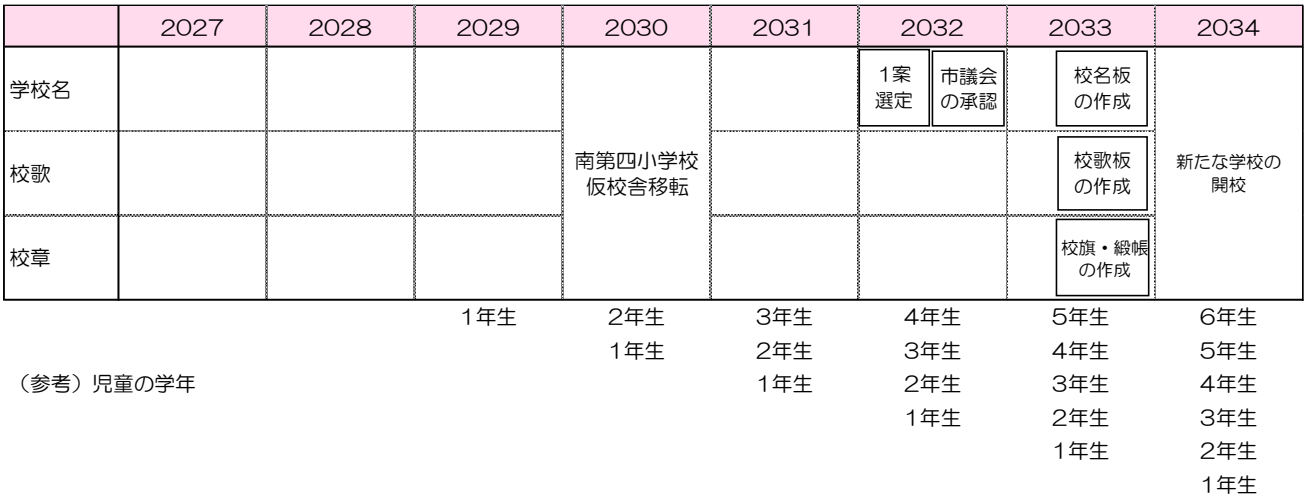
2034 年度の開校時に、新たな学校名の校名板等を使用するためには、2033 年 3 月の市議会までに承認を得ることが望ましいです。

（2） 校歌・校章

制作期間（制作者と児童の交流を含む）はおおむね 1 年を想定しています。

新たな校歌や校章の校歌板や校旗、緞帳は半年程度の期間での作成を想定しています。2034 年度の開校時に使用できるようにするためには、2033 年度中に作成する必要があります。

（年度）



委員の皆様には「学校名・校歌・校章をいつ選定・制作するといいのか」についてご意見をいただきます。いただいたご意見を参考に、今後の検討スケジュールを作成します。

＜参考＞時期を検討する際の視点
- 学校名を校歌・校章に反映させるため、先に学校名を 1 案に選定する必要がある。
- 新しい校歌ができてから開校までに少し期間を設けると、お披露目会（両校の合同行事として、決定した校章の児童への発表、校歌斉唱など）の開催や、統合後初めての始業式で校歌が歌えるように児童が練習する時間を設けることができる。
- 学校名・校歌・校章を早く作ると周知の期間が長くとれる。一方で、早すぎると意見募集や制作に開校時に在籍する児童が関われなくなる。